

## あ と が き

「昨日は昨日の風が吹き、今日は今日の風が吹き、明日は明日の風が吹く」保育の現場に吹く風は、有能な気象予報士さえ予知できぬさまざまな様相を見せます。そして、その風はその日の、そのクラスの、その瞬時の生活づくりをしています。私達は、予想の付かない風に一喜一憂しながら、試行錯誤の保育活動を展開しているのです。平成14年度、本園では152名の織りなす風が吹き、152通りの風紋を描いていきました。その152の風が「友達とかかわり合いながら創る生活プラン」のコメンテーターとして、「もう、そのプランは間に合わないよ。だって、もう新たな生活でしょう」と告げているかも知れません。

本園は平成5年に「幼児の生活に沿った教育課程」を編成し、平成7年に「幼児の生活に沿った指導計画」を作成しています。ところが、指導計画を作成した夏に、金沢市内の中心部から高等学校に隣接する郊外の地へ、小学校、中学校と共に統合移転しました。移転に伴い、それまでに作成した指導計画はその時点で、見直し、新たに作成しなければならない状況となったのです。今回、これまでの研究で追求してきた、幼児一人一人の「自分づくり」や「友達とのかかわりの変化」等をベースに、今日的課題を折り込みながら「創る生活プラン」の作成を試みました。

「友達とかかわり合いながら創る生活プラン」は、幼児一人一人の育ちや友達とのかかわりを基盤に、近年取り組んできた「幼・小連携」や「保護者との連携」そして「個と集団」「健康や安全」にかかわる問題など、新たな課題をキーワードに作成したつもりです。作成するプロセスで、一つのプランに普遍性を加味しようとする、本園の独自性が見えなくなってしまうのではないかということも話し合われました。そういったジレンマにも増して、新たに「健康・安全」に関してのティーチングプランを作成できたことは、職員一同の喜びとなっています。

これまでの研究に当たり、ご指導いただきました教育学部や附属小学校の諸先生方をはじめ、多くの先生方に厚くお礼申し上げます、今後の研究に更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成15年6月

副園長 池田 三津子